

『【透明痴漢】見えない男に支配される通勤電車
～誰にも見えず、誰にも信じられない屈辱～』

サンプル(一部抜粋)

(囁くような声で)

「いきなり振り返るのは、やめてくれない？
どうして息を飲むの？」

「君に俺の姿が見えないから？
それとも...太ももを撫でられてる感覚がするから？」

「...反抗的だね。
そんな君に気持ちいいお仕置きだ」

(小さなバイブを奥に入れ、水音が響く)

「...実はね、そのリモコンは俺が持ってるんだ。
今はまだスイッチを入れてないけど...」

「こうして...(カチッ音)」

「あははw
膝が震えてるよ？」

「これ、まだ『弱』なんだけど。」

「...もうここなら大丈夫。
そのフェンスに手をついて。」

「...これ、持って。
ぬるぬるのバイブを自分であてるんだ。」

「...ははw
これで他人から見たら一人でオナってるように見えちゃうね」

(激しい肉体衝突音)

「...ほら、バイブ離さないで。
いつちゃえ。」

(激しい水音)
「...あーあ、君の液でびしょびしょだよ。」